

7月17日

イベント「共存、探る夏」



新型コロナウイルスの感染が急拡大する中で迎えた三連休初日の十六日、県内はイベント会場や観光地がにぎわった。あわら市では市無形民俗文化財「金連祭」が開幕し、越前町では境内の夏の花火大会のトップを切って「越前みなと天火祭」が三年ぶりに復活。しかし、コロナ禍以前の人出とは一かず、感染対策は欠かせない。「コロナとの『共存』を探る」連面

(北原豊、清兼千鶴、平林靖博、細明日香、諒根智貴)

気をもむホテル、旅行会社

越前みなと天火祭は、花火以外のイベントを中心とした開催。会場入り口ゲートを設け、検温と手指消毒を実施し、マスク着用に協力を求める放送を流しながら対策を徹底した。毎年歓送で訪れていたところ、越前市の会社員男性(40)は「三年ぶりの花火大会。行動制限のない中なので行きやす」と、シャトルバスで会場へ向かった。

3年ぶりに露店が並び、花火を鑑賞する
あわら温泉祭(16日)あわら市観音寺

国内新規コロナ感染者急拡大

金連祭では三年ぶりに露店が並び、学生がルートや家族連れが行き交った。「コロナ禍前は人も露店もものかよと多かった気がする」との声も聞かれたが、主催する金連祭保存会の佐田連選事務局長(42)は「開催できて良かった」と、本来の形に近い祭りの開催にホッとした表情を浮かべた。十七日は、同局手やはやし方の人数を制限して武者人形山車三基を巡回する。

越前みなと天火祭は、花火以外のイベントを中心とした開催。会場入り口ゲートを設け、検温と手指消毒を実施し、マスク着用に協力を求める放送を流しながら対策を徹底した。毎年歓送で訪れていたところ、越前市の会社員男性(40)は「三年ぶりの花火大会。行動制限のない中なので行きやす」と、シャトルバスで会場へ向かった。

勝山市の県立恐竜博物館には、「一日当たりの入館制限」迫る六千六百三十人の予約があった。愛知県安城市から家族五人で訪れたサビヌードルのビスケ、畔柳洋介さんは「(コロナが比較的落ち着いていた)一ヶ月前に計画を立てた。感染が拡大し、この連休は無理のない日程にした」。同館では、五月初旬から入館上

げきを六千人から八千人に引き上げた。感染状況を踏まえ、予約制を継続する考え。
あわら温泉(あわら市)の旅館やホテルは午後二時すぎから、チェックインの客が混雑した。夏休みの予約も入り始めた中で感染が拡大し、芦原温泉旅館営業組合の山口透理事長(51)は「(コロナ)もう連休はまづます。キャンセルはないが、今後の感染リスク」と気をもむ。

一方、「福井旅行ベルトアベルサロ」(福井市)の担当者は「県外旅行のキャンセルが出始めた。今年はこれから上り調子だ

と持ち替えていたのに」と、と苦笑を漏せない。七月前半に予定された全国旅行支援の開始時期を政府が延期した中で、教いは県内旅行の代金を割り引く原の「ふじいのねねキャンペーン」が八月末まで延長されだ」と。「県内の日帰り旅行はキャンペーンあり過ぎる人が多い。助かります」と話した。

国内最多11万人感染

「第7波」重症者増懸念

5の感染の広がりやすさを示す累積再生産数は、「これまでに流行した「BA.2」の約1.11・1.4倍」と述べた。

厚労省によると、重症者は百十四人で、前日より七人増加。第五波のピーク時は約一千一百人、第六波の約一千五百人比べると少ない。社会経済活動と感染拡大防止の両立を維持する文部省は「新たな行動制限は現時点では考えていない。社会経済活動と感染拡大が急速に増加し、流行第7波」が本格化、ピークは見通せない。第六波と比べて重症者数は低い水準であるが、今後増加が懸念される。

政府は十五日の対策本部で「PCR検査や検査換算された推計では、BA.5に替わりが進んでいることが一因とみられる。厚生労働省の専門家組織に報告された推計では、BA.

厚労省による、重症者は百十四人で、前日より七人増加。第五波のピーク時は約一千一百人、第六波の約一千五百人比べると少ない。社会経済活動と感染拡大が急速に増加し、流行第7波」が本格化、ピークは見通せない。第六波と比べて重症者数は低い水準であるが、今後増加が懸念される。